



[トップ](#) [暮らしの情報](#) [文化・スポーツ](#) [生涯学習・社会教育](#)

ひので映画大使最新版

[2018年12月12日]

第99回映画大使「人魚の眠る家」

- ・ 期日 平成30年11月6日(火曜日) ※試写会にて開催
- ・ 場所 イオンシネマ日の出

作品紹介

2015年に執筆30周年を迎えたベストセラー作家、東野圭吾の同名30周年記念作品を、『トリック』シリーズなどでメガホンを取り、今や日本を代表する映画監督となった堤幸彦監督が映画化したミステリー。原作は、累計100万部に迫る売り上げを記録しており、禁断のベストセラー小説と言われている。脚本は、NHKの連続テレビ小説『まれ』などを手がけた篠崎絵里子が担当する。

意識不明という状態からの娘の回復を願いつつも、決断を迫られる夫婦を『アンフェア』シリーズの篠原涼子と、『MOZU』シリーズの西島秀俊が演じる。その他に、松坂慶子や田中泯、坂口健太郎、川栄李奈など、ベテラン、新鋭俳優が脇を固めている。

二人の子を持つ播磨薫子とIT機器メーカーを経営する夫・和昌。娘の小学校受験が終わったら、離婚すると約束した夫婦のもとに、突然の悲報が届く。娘がプールで溺れ、意識不明になるという突然の悲劇に襲われた夫婦が決断した結果により、過酷な運命を背負うことになった彼らの姿を、迫力の演技と緻密な演出で描きだす。



(C)2018「人魚の眠る家」製作委員会

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

映画大使の「第一声！」

- ★ 最高に泣ける作品でしたね！
- ★ 親ながら凄く泣けてしまいました！
- ★ みんなに観ていただきたいなと思いましたね！
- ★ 非常にいい作品だと思いました！



今回参加された、映画大使の皆さんです！

映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

この作品の原作者の方の別の作品はいくつか読んでいるのですが、一番印象に残っているのは「容疑者Xの献身」です。

この作品も思いつかないようなお母さんの気持ちやお父さんの気持ちが描かれていましたが、作品の途中は、それが、読めないところがありまして、本当はどう思っているのだろうなと思いながら観ていましたね。

やはり母親は子どもの死をなかなか受け入れられないものなのだという事を改めて思いました。

家族がみな、弟も含めそれぞれが、瑞穂の事を想っているのだなと思いましたね。凄く人の気持ちをそれぞれ違う角度で描いている作品なのだと思いました。

Bさん

この作品の原作者は、今一番売れている作家であるという事は知っていますが、作品を読んだ事ありませんでした。

母親や、父親や家族が娘や家族の死を受け入れられないというのはわかりますが、この作品のような事をする事が良い事なのかどうなのか考えながら観ていましたね。

後半の母親の夢に瑞穂がでてきたシーンを観まして救われた気持ちになりました。

Cさん

私は、15歳の甥っ子が今年の8月に交通事故で亡くなりました。横断歩道を青信号で渡っていてひかれたのですが、凄く哀しい思いをしましたね。その子の親はもっと辛かったのだと思いますが、その子の父親が脳死のまま生きていたらもっとつらいのかもしれない、と言っていたのを思い出しました。そんな事もありして、この作品を観ながら凄く泣けてしまいましたね。

私は、この作品を観ていまして、篠原涼子さんが演じる母のように子どもへ愛情を注げる親なのかな、とも考えていましたね。自分はそうではないのではないかと思いますし、あの母親は凄いなとも感じました。

実際に子どもを無くした親でないとわからない事もあるのだろうなとも思いましたね。やはり子どもの死は認められないのだろうなとも思いました。親よりも先に子どもがなくなる事は、本当に悲しいのだろうなとも感じましたね。

Dさん

篠原涼子さんの演技は、『アンフェア』などの映画作品が好きで、よく観ていました。今回は母親役で、その作品の時の役柄とはかなりイメージが違っていましたね。実際にお子様が生まれたので、少し落ち着いたのかな、とも思いました。

自分もこの作品のような状況になったら、子どもは家に連れて帰るのかなと思いましたね。

最後の終わり方はあれで良かったのかな、と思います。

最高に泣ける作品でしたね。

Eさん

脳は死んでも心臓が動いていた場合、生きているという考えができる事を、以前にテレビで観ていて知っていました。脳死判定をしてから長期間脳死状態である場合、第三者から見ると意識がなくて寝ているように見え、ほぼ死んでいる状態と思いますが、家族にとっては、脳死を受け入れられないで、心臓が動いていて、そこに存在しているだけで心の支えになるという事なのかなと思っています。家族としては、生きていると思っている状態ですが、他の人から見るとそうみられない事を考えると「死」とは何なのだろうと凄く考えさせられましたね。肉体は無くなっても他の人の心の中に残って生き続ける事などもありますので「死」の基準は難しいなと感じました。

Fさん

映画を作っているのは監督で、監督が観る方にどのような事を問いかけていたのかという事ですので、その事を考えて観ました。

この作品では、人間の死について、脳死が死なのか、心臓が止まる事が死なのかを問いかけていたと思いましたね。その事について、いろいろなシーンで、それぞれの考えを描いているのですが、その結論を監督は終わりの方で言われていると思います。死に関する考え方のやり取りが、この作品の見どころなのかなと思いましたね。

科学技術が進んでいきますと、脳ですら機械化できて、生と死の堺がわからなくなっていくと思うのですが、肉体があって、肉体をもっている生物が何かを食べて肉体を維持していく、そういう事はロボットにはできないですよ。ロボットではない人間がいるいと悩んでいく姿を、監督はこの作品で描いているのだなと思いました。

非常にいい作品だと思いました。

Gさん

画像が凄く綺麗だと思いました。

本人から延命を望まないと言われていても、家族からすると生きていてほしいと思い、延命を望んでしまい、結果として植物状態で生きているという方が、今まで凄く多かったのだと思いますね。この作品でもその事を投げかけているのだと思います。

呼吸器などの延命行為をいつやめるか、という事が社会問題にもなっていますが、この作品でもその事についても問いかけていると思います。

よく延命治療について、どこまでを望むかを書いておいてほしい、と言われていた話がありますが、延命治療にもいろいろありますので、どこまでを望むか詳細を書いた方が良く、この作品を観て思いましたね。

科学の力と人間の死を考えさせられる、いい作品だなと思いました。みんなに観ていただきたいなと思いましたね。

Hさん

脳死の問題や、最新医療の問題などいろいろな事を考えさせる作品だったなと思います。

愛情のかけ方も親子、夫婦、ちょっと遠い親戚、近所の方など同じ物事でも近さによって感じ方が違っているなと思いましたね。冷静になるのは、外からが一番早く、近い方は冷静になりづらいのだと思いました。

この作品では、作者がそれぞれにテーマを投げかけていて、最新医療だけではなく、AI(人工知能)などの技術が、人間を追い越していくぐらいのスピードで進んで行く中、人間が向き合わなくてはならない「死」について何かを問いかけているかなと思いましたね。

瑞穂が元氣だった時に描いた絵の場所についても、物語を一つ作っているのかなと感じました。

いろいろな事を考えさせた作品でしたね。

みんなが違う形ですが、それぞれ愛情をもっていたので、見応えのある、良い作品になったのだと思いました。

作品の内容(印象に残ったシーンなど)

・私の兄弟は延命措置をしないで看取ったのですが、和やかの中での看取りでよかったです！

・若いお父さん、お母さんに観ていただきたいですね！

・いろいろな意見が出るという事はいい作品であると思いますね！

まとめ

この作品は、ベストセラー作家、東野圭吾の同名小説をもとに映画化された作品であり、東野の作品は、この1年だけでも複数映画化され封切られています。

他の東野作品に比べるとミステリーの度合いはうすく感じますが、決して要素が無いわけではなく、「死」などを代表としたテーマ性が多く、観る人に残るものが凄く多い作品になっています。

また、原作の良さを活かす演出が堤監督によりされており、シーンにより撮影の方法や画角、アップの度合い、バックをぼかすなどの映像の効果を始め、隅々まで気を配った映像作りをしています。加えて、伏線も多く、物語の要素が多いのにも関わらず効果的でわかりやすく物語が描かれています。そして、物語の進め方も、平坦な流れから、一気に盛り上げる演出がされており、見応えもあります。

映画大使の方からは、多くて、熱のこもった意見が出されました。そのようになったのは、観る方に想いがしっかりと伝わったからであると感じました。

映画は是非、劇場の大スクリーンでご覧ください！

映画大使では、年代も性別も違う方達が、それぞれ意見を出し合いひとつの映画について話し合うという、日ごろできない経験をする事が出来ます。映画を観て自分がこう思っただけではなく、年齢や経験などの違う人の目線で観たことを聞くことにより、違った発見があるので、ひとつの映画が何倍にも広がって行きます。

今後も「ひので映画大使」にご期待ください！！

関連ページ

- ・ [これまでのひので映画大使](#)
- ・ [ひので映画大使のトップに戻る](#)

ご意見をお聞かせください

このページは役に立ちましたか？

役に立った どちらともいえない 役に立たなかった

このページは見つけやすかったですか？

見つけやすかった どちらともいえない 見つけにくかった

送信

お問い合わせ

東京都 日の出町 文化スポーツ課 社会教育係
電話: 042-597-0511(内線541) ファクス: 042-597-6698

ひので映画大使最新版への別ルート

[トップ](#) [新着情報](#)

Copyright (C) Hinode Town All Rights Reserved.